

ホワイトボードが授業を変える ー大洗・南中学校ー

11月23日(火)、大洗町立南中学校(磯田洋校長)で第6回教育実践研究発表会が行われました。同校は、県内初の教科教室型の学校で、教科教室型システムを活用し、指導方法を改善するなどして、意欲に満ち、主体的な学びのできる生徒の育成に取り組んできました。教科教室型システムの導入から11年目となる本年度は、新たに研究主題「豊かな学びに向かうエネルギーを高めるために」を設定し、学校教育目標の一つである「自ら学ぶ意欲をもち、創造性に富む生徒の育成」を目指しています。

研究発表会には、県内外から200名を越える教員、大学生、教育関係者が参加し、活気のある発表会となりました。その中から、特に、移動式のホワイトボードを活用した話し合い活動を紹介します。

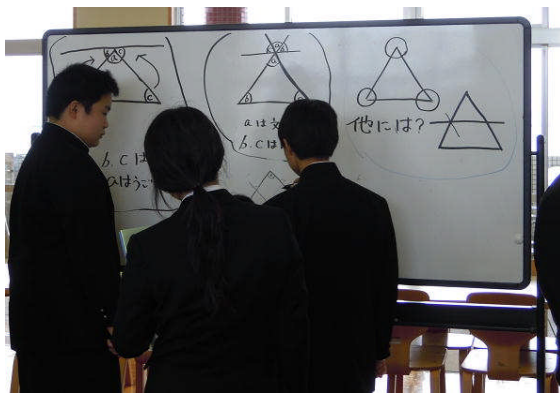


図1 第2学年数学「平行と合同」

第2学年数学「平行と合同」(指導者:小林浩之教諭)では、「三角形の内角の和が 180° になることを、辺の延長や平行線の引き方を工夫して説明する」という課題に取り組んでいました。

学習課題をつかみ、自力解決した後、生徒は、グループごとにホワイトボードの前に集まりました。ホワイトボードは、それぞれのグループの机の近くに配置されています。一人ずつホワイトボードに図形を描きながら考えを発表し、お互いの考えを比較検討しました。どの生徒も積極的に発表していました。

「生徒同士が考えを共有し、共感しながら学習が進められるようにすることで、自分の考えを発表する場面を多くしたい」という指導者の願いが、実現されていました。(図1)

第3学年数学「相似と比」(指導者:桜井一城教諭)では、「角の二等分線に関する図形の性質を、いろいろな考えで説明する」という課題に取り組んでいました。

学習課題をつかんだ後、生徒はすぐにホワイトボードの前に集まり、グループごとに課題を解決するための話し合いを始めました。ホワイトボードは、第2学年数学「平行と合同」のときと同じように、グループの机のそばに配置されていました。グループでの話し合いが行き詰まったときは、他のグループの意見を聞いたり、他のグループの話し合いに加わったりして解決を図りました。どのグループもいろいろな考え方で説明しようと積極的に話し合いが行われていました。

桜井教諭は、数学の指導に当たって、「自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えをしっかりとった上で比較検討できるようにしたい」と考えています。しかし、本時は、証明が苦手と考えている生徒がいることから、最初からグループで解決する方法を取りました。「グループで解決することによって、証明が苦手と考えている生徒でも、お互いの意見を交換して自分の考えを深め、図や文章で説明できるようにしたい」という指導者の願いが、実現されていました。(図2)



図2 第3学年数学「相似と比」

第2学年社会「世界と日本の人口」（指導者：松本将良教諭・上田優教諭）では、「大洗町発展プロジェクトに向けた対策を話し合おう」という課題に取り組んでいました。

学習課題を確認した後、グループに分かれ、自分たちが立てた対策の問題点をホワイトボードに書き出し、より良い対策になるよう話し合っていました。図書室のスペースを生かし、図書室の机のそばにホワイトボードを配置して、進行役の生徒が意見を書き込みながら話し合いをリードしていました。様々な角度から意見を出し合い、活発に話し合っていました。



図3 第2学年社会「世界と日本の人口」

「活発に意見交換がなされるように、グループやクラス全体での検討場面を多く設定することにより、話し合い活動によって生徒一人一人の考えが深まり、学習における充実感や将来への社会参画意識が高まるようにしていきたい」という指導者の願いが、実現されていました。（図3）



図4 第3学年国語「自分の感想を深めよう」

第3学年国語「自分の感想を深めよう」（指導者：江頭久美子教諭・長洲まい教諭・白土瑞樹講師）では、「故郷」（魯迅）を教材に「課題別の話し合いを通して内容の読み取りを深める」という課題に取り組んでいました。

前時までは、自分で課題を決め、自分なりに解決を図る学習活動を進めてきました。本時では、同じ課題をもっている生徒同士がグループを組み、ホワイトボードに各自の考えを書きながら話し合い、課題解決に向けて読み取りを深めていました。ホワイトボードは、教室、国語科教室、書写教室、保体教室、和室などを利用して8カ所に設置されていました。

「話し合いを通して、課題解決した内容を友だちと意見交換することによって、自分のものの見方や考え方を深めることができるようにしたい」という指導者の願いが、実現されていました。

指導者の一人、江頭教諭は、平成22年度優秀教員（ティーチャー オブ ティーチーズ）に選ばれた先生です。多くの参観者が、メモを取ったり、写真やビデオを撮ったりして、熱心に参観していました。（図4）



以上の授業から、移動式のホワイトボードを使った話し合い活動には、次のような利点があり、ホワイトボードが授業改善の有効な道具となることがわかりました。

- パネル面が広いので、グループ全員が自分の考えを書くことができる。そのため、各自の考えを比較検討するなど、誰もが積極的に話し合い活動に参加することができる。
- 文章、絵、図などを描きながらお互いに説明したり考えたりできるので、グループ全員の力を出し合って課題解決を図ることができる。
- 自分たちのグループで解決できないときは、他のグループの話し合い活動に加わって解決を図ることができる。パネル面の広さが、複数のグループによる話し合い活動も可能にする。
- キャスター付きで移動できるため、教室以外のスペースで、話し合い活動を行うことができる。教室で発表するときは、ホワイトボードを全員の前に移動し、内容を見せながら発表することができる。